

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 15日

事業所名 しあわせ駅 読谷

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1		フロアが狭いので外遊びを取り入れ工夫している。今後も工夫を重ね、過ごしやすいスペースを確保していきたい。
	2 職員の配置数は適切である	7		児童人数に応じて職員数を調整している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	3	完全なバリアフリーではない為、スタッフが細心の注意をはらい、支援を行なうように心がけている。	スロープを設置するなど改善を図ってきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		毎日の掃除を行い好きな遊びができる環境である。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1		記録とミーティングにより改善していく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		今後も保護者様のご意見を真摯に受け取り業務改善に努めていく。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		ホームページにて公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2		現在改善中である。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	コロナの影響で参加が厳しかったが、スタッフ間での情報交換を行い補った。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		ニーズや課題を明確にし作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		個々に合わせたアセスメントツールを使用しているが、今後も見直しを図ってきたい。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		具体的な支援内容が設定されており、それとともに支援が行われている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		計画に沿った支援を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7		ミーティングを行い活動内容を計画している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		固定せず、状況に応じて予定を変更したりして子供たちも対応できるように工夫している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		難しすぎず、簡単すぎない活動を取り入れみんなが参加できるよう工夫している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	状況に応じてではあるが日々確認を行っている。	確実に毎日行えるように工夫して改善していきたい。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	4	3		気づいた点をその都度、共有することはあるが、毎日確実に行うことは難しい状況である。時間の確保を工夫し、改善を図っていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		記録を取り改善に繋げている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		行っている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		参加している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	2		今後も連携をとり、関係機関との情報も全職員に周知を徹底していきたい。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	3		医療的ケアの児童の利用は、現在いないが、今後医療的ケアの児童が来た場合には、連携した支援を行ってきたい。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	5		医療的ケアの児童の利用は、現在いないが、今後医療的ケアの児童が来た場合には、連絡体制をしっかりと整えていきたい。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		場を設けての情報共有は少ないが、お迎え時に情報交換をしている。	今後、出来る限り多くの情報交換の場を設けていきたい。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		モニタリング等を通して情報共有を行っている。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3		コロナの影響で参加できていないが落ち着いたら参加していきたい。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7		取り入れていないが今後交流を検討していきたい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		7		前年度は参加できたが、今年度はコロナの影響で参加できていない。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎の際に情報交換・共通理解を図っている。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	2	5		今後もペアレントトレーニングの研修の案内などを行っていく。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約の際に行っている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		今後も丁寧に行っていく。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		送迎時やモニタリング時に行っている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6		今年度コロナの影響により開催できていない。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		その都度、職員間でも話し合い迅速に対応している。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		月に1回のお便りを通して日々の活動を伝えている。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	7		注意して保管している。	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		その都度、職員間でも話し合い迅速に対応している。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		今年度は、コロナの影響により開催できていない。今後、コロナ終息後、取り組んでいきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		緊急時の対応が見える位置に掲示している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			年に2回行っている。 時々、消防と連携し訓練を実施
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		都度確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		アレルギーを持つ児童を把握しグルテンフリーのお菓子を手作りして提供している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		その都度作成し次に同じことが起きないようにスタッフ間で徹底している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2	ミーティングを通して確認している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	2		身体拘束を行わないといけない状況になる児童さんが現在いないが、今後その場合には計画書に記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。